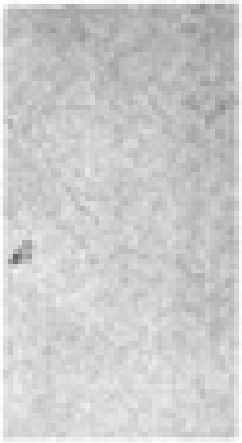
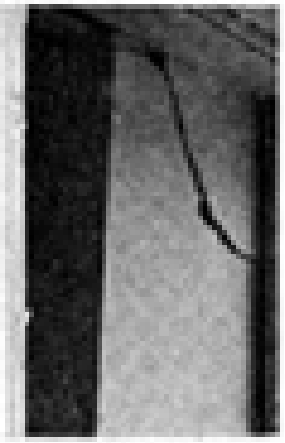
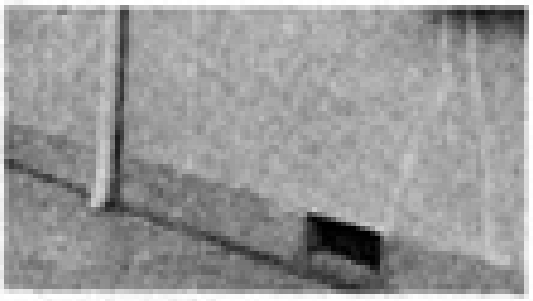
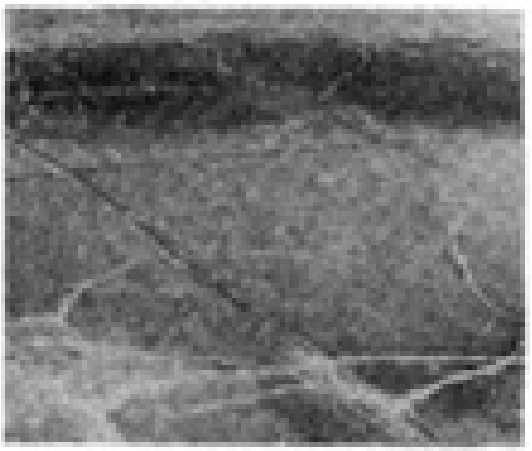
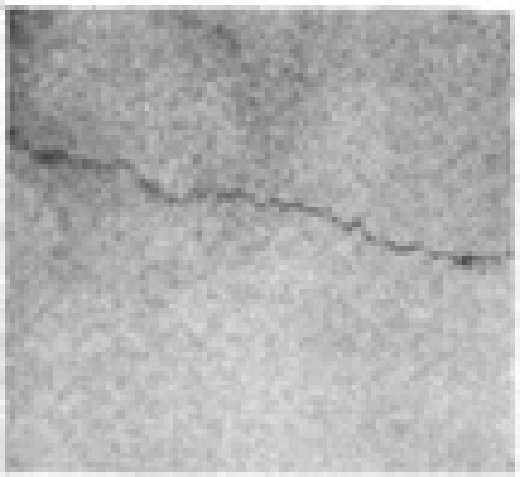
B7 左官











B7－5　モルタル塗金鏝仕上壁のきれつ

もともと難しい工法で、これが消滅したころは、腕のよい職人が入念な仕事をしたものである。今は職人も職人だが、セメントのせいかモルタルの収縮きれつが目立ってきた。①下地から割れる場合と②モルタル自身の収縮きれつのばあいとあるが、対策としては

A下地の割れに対しては

下塗後3週間はどほっておいて、下塗を勝手に割らせておいてから中塗で割れを止めて上塗する。ほんとうは3週間では不十分で半年、一年してからがよい。

Bモルタルの収縮きれつに対しては

①セメントに収縮率の低い材を採用する。混和材は入れすぎないよう、せいぜい15～20%でよい。それも夏は多い目に、冬は少な目に手心を加える。

②下塗は中塗の足がかりをよくするために、また下地へのつきをよくするために中塗より富調合（1：2）にする。逆にすると亀裂が多くなる。

③上塗では1：3以上に砂を多くする。1：2では無理である。

④砂は下塗、中塗にはいくぶん粗目のもの（3㎜フルイ通過100%、0.5㎜50%以下）でよいが上塗には細目のもの（2.5㎜フルイ通過100%、0.5㎜30%以下）を使う。

⑤下塗に⑤を入れて成功した例がある。

⑥仕上げの鏝ずりを何度もやっているとセメントが表面に浮き出して亀裂の原因をます。押えはなるべく回数を少なくする。

モルタルの水引き加減と硬化時間をにらみ合せて押えていくことが仕上げのポイントである。鏝ずりが早すぎたり間に合わなかったためにこすりきれなかったりすると亀裂が入る。

⑦材料の練り合せはミキサーによる。

⑧各層の強度のむらをなくする。いわゆるドカ付けはいけない。